

令和5年度 北海道函館聾学校 学校関係者評価

令和6年2月15日（木）に第3回学校運営協議会を実施しました。当日は、7名の委員の方の出席（欠席3名）の中、本校の学校評価結果に対して御意見をいただきました。

1 研究・研修を実践に活かす取組について

「学校の様子を何度か見せていただいているが、子どもたちの表情がとても良く、先生方も一生懸命心を込めて対応し、工夫しているのが分かる。」「この先生方の意識の高さや専門性が印象的である。」「保護者のみなさんへ先生方が研修を受けていることを伝えては？」「学校でやっていることを保護者に伝えきれていないのはもったいない。」という御意見をいただきました。

→ 本校では、教員は授業研究で一人一実践を行い、反省会で校長や教頭が助言を行っております。また、講師招聘研修として年間3回聴覚障がい者協会の協力を得て、手話を教えてもらい授業改善に活用しています。さらには、来年度北海道聴覚障害教育研究大会があり、それに向けて東北福祉大学の教授に今年度と来年度に継続して本校を見に来て講演をしてもらい、講演の様子を全道配信しています。特別支援教育センターの研究員には手話の力を高めるため今年は2回、来年度1回来てもらい集中して研修しています。

→ これらのことを次年度のPTA総会の場で、保護者の皆様にも伝えていきたいと思います。

2 働き方改革について

「働き方改革についてはどこでも課題としてある。一定の水準を保たれているためにすごく努力をされていることに感心する。働き方改革については全道で交流できる場所などで交流してはどうか？これは一つのところで解決できるものではないのではないか。校長先生や教頭先生と一緒に、皆さんが頑張られてこられたことが分かった。」という御意見をいただきました。

→ 本校でも、職員会議や職員朝会の回数を減らすなど様々な働き方改革に取り組んでいます。特に今年度はGoogleWorkSpaceを活用し、教職員がいつ、どこにいてもiPadなどの端末から、幼児児童生徒の欠席確認ができたり、職員朝会の連絡事項などを確認できたりする仕組みを整えました。

3 「分かる授業」の改善に向けて

「田植えから一貫して米が採れ、おにぎりを握るまでを1年通してやられたということで、子どもの発表もすばらしい。その裏での先生方のサポートもすばらしい。」という御意見をいただきました。

→今年度は「実物・実体験・本物」や優れたものに触れさせる教育活動を推進してきました。この自然体験学習も含めて、各学部で工夫を凝らしながら幼児児童生徒の実態に応じた教育活動を実践し、「分かる授業」の実現に向けて日々授業研究に励んでおります。

4 家庭・地域との連携に向けて

「私は職業をもちながら、子育てをしていたので、子どもたちの授業の環境、どういう授業をしてもらっているのか？馴染んでいるのか？分からなかった。（学校評価では）個別に点数の低い部分では対応しており、保護者がいつでも授業を見られることはすごく安心できる。個別に対応して、関係性を作っている。これからも続けてほしいと思う。」という御意見をいただきました。

→最近は共働きの家庭が増えるなど、参観日の日など決められた日になかなか来校できない場合があります。そこで、いつでも良いので子どもの様子を見に来てくださいと伝えています。特に、お父さんやお母さんだけでなく、兄弟姉妹、おじさんおばさんもみんなに学校に来てほしいと思っています。そのことで子どもをより理解していただき、多くの方にサポートしていただける環境を作りたいと考えています。なかなか来られない方が多いですが、そこはオープンに学校を開放していきたいです。